

カラスヘビ (シマヘビ)

午後の仕事に出かけようとしているときに、市山さんの変な声が聞こえてきました。ヘビだ!! というのです。近寄って見ますとカラスヘビでした。澄川基地から駐車場広場上がる坂道の切土の法面の自然な凹みにとぐろを巻いているところでした。黒くて美しいヘビでした。写真をご覧ください。クマザサの茎で突きますと凹みから出て素早く藪に隠れました。長さは1m弱、2012年9月22日13時頃と記録しておきます。



少年時代の九州でもカラスヘビとして記憶していましたが、帰宅して調べますとカラスヘビはシマヘビの黒化型なのだそうです。とするとカラスヘビは和名ではなく、便宜的な呼び名だということです。それにしても外観は違いすぎます。もっとも白人と黒人は生物学上は同一種類の生物ホモサピエンスなのでから、シマとカラスが同種であることも納得できます。色ちがいが柄ちがいはいろいろな生物であることですからこのヘビもそうだということです。

人間は進化の根元の方で、樹上生活の安全を脅かされた天敵としてヘビが DNA に記憶されているようで、大方の人はヘビに怯えます。気味悪さは最右翼なのです。

北海道に生息するヘビ類はこのシマヘビと澄川でもしばしば見かけるアオダイショウ、他にはジムグリ、シロマダラ、ニホンマムシの5種類だそうです。内地に較べて種類も数も少ないのは助かります。毒ヘビはマムシだけですから有り難いことです。数年前に澄川でヤマカガシを見たと思っていましたが、シマヘビの色違いだったということでしょう。



シマヘビ

シマヘビは好んで他のヘビを襲って食べるようです。インターネットで画像や映像を検索するとしばしば出てきます。すさまじい迫力です。

この日は連日の酷暑がやっと和らぎ、汗も少なめでしたが、台地の草刈仕事を終えようとする頃から雷雨となり結局は濡れまみれてしまいました。しばし雨宿りして解散となりました。